地域と学生の交流拠点「がやがや門」の社会学的分析

2018 年度卒業論文

九州大学文学部

社会学・地域福祉社会学研究室

要約

人とのつながりが希薄化していると問題視されてから久しい。地域での人間関係は徐々に少なくなり、社会の基本的単位とも言われる家族すらも解体の傾向が進んでいる。また、年功序列や終身雇用といった従来の働き方さえも失いつつある。「良い教育を受け、良い大学・良い会社に入れば、幸せな人生が手に入る」などという指針に意味を持たなくなった現代の社会は、若者たちに自分らしくあれと強要する。関係性の希薄化により、容易に他者と比較することのできない社会で「自分らしさ」や「やりたいこと」を見つけようとする現代の若者たちは、非常に不安定な社会の中で生きていくことを余儀なくされている。その結果として自分のやりたいことが見つけられず、より自分の内部世界に埋没し、自分の欲望を欲望するような奇妙な現象すら起こっている。現代においては、自分自身ではなく社会に目を向け、社会的な活動をしようということは少なくなりつつある。

このような複雑な状況の中で、2013 年からがやがや門は「地域と学生の交流拠点」という正反対のコンセプトを掲げて活動が始まった場所である。活動には、元岡商工会との協働や学生の入れ替わりなどの特徴がみられ、大学生が試行錯誤しながら地域住民との交流を目標としている団体であることが明らかとなった、また、がやがや門は本来存在していることの多い助成金やプロデューサーが無いという特殊性を持ち合わせていた。これらによって大学生が苦労している部分もいくつか見受けられたが、それでも大学生たちは周りの大人の助けも借りながらなんとか現在まで運営を続けている。そのような困難な状況の中で活動が継続してきた背景にあるのは、活動することによって学生に何らかの影響がもたらされていることが分かった。今回の調査では学生に見られた特徴の中で、新しい地元の獲得・自己実現・模索期の居場所的機能という 3 つに焦点を当てた。

現在の社会状況の合わせると、もともと住んでいた土地に愛着やつながりがないという若者も多くいると考えられる。そのような若者ががやがや門の活動を通して、初めて地域コミュニティに溶け込み、心地よいと感じられている。このようなことが可能となったのは、活動内容のみならず、それを支える商工会や地域住民が大学生を受け入れる環境を整えているからであり、このような他者を受け入れる余地はさらなるつながりを創造していくと考えられる。また、がやがや門が持つ自主性ゆえに自己実現を成し遂げた学生も見られた。単に実践の場であるだけではなく、交流し話し合いができる場所があったからこそ、学生の目標は当初のものにとどまらず、さらに高みを目指していくことが可能となった。最後に現代の「やりたいこと」志向の社会に対して、それが見つかるまでの居場所のような役割も果たしている。他者との関係性なしに自分らしさなど存在しないにも関わらず、それを見つけることをせかし続ける社会の中で、がやがや門という場所が一時的に身を寄せ、そして乗り越えていくことのできる場所ともなりうる。

このようにがやがや門で活動をしている・してきた大学生には、単に社会貢献意識と

いうものではくくることのできないような様々な志向性が存在していた。これらはがやがや門の特殊性ゆえにみられる現象であるとも考えられ、一見欠点であるように見える助成金とプロデューサーの欠如が大学生に新たな志向性をもたらしている。これは場所を変えても再現性のあるものであると考えられる。今回調査した九州大学の学生に限らず、全国的にも青年期はもはやモラトリアムと呼ぶことはできず、自分の将来を早く見据えなければならない状況に苦しんでいる若者は多い。そのような若者たちに、地域の中での居場所を与え、自分たちの手で何かを作り出せるという経験は重要であると言える。がやがや門の調査はその可能性を十分に示すことができたのではないだろうか。

最後にがやがや門に残る様々な課題点については、提示するだけで終了してしまい、解決策を提示できなかったことは悔いが残る部分である。筆者自身もがやがや門に関わってきた人間として、新しい目標や方法を模索していくことを今後の課題とし、引き続き検討していきたい。

目次

はじめに
1　本研究の目的・・1
2　大学と地域の連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2.1　大学と地域の関係性の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2.2　公的制度としての地域社会との関わり方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2.3　授業を中心とした地域社会との関わり方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2.4　学生を中心とした地域社会との関わり方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
3　大学生・・6
3.1　大学の変化・・6
3.2　大学生を取り囲む社会観念の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
3.3　大学生の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
3.4　大学生の就活事情・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4　若者の意識・・11
4.1　アイデンティティとモラトリアム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
4.2　若者文化の起こり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
4.3　若者文化の変容と消滅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
4.4　若者文化崩壊後の若者の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
4.5　関係性に固執する若者たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
4.6　関係を閉ざす若者たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
4.7　現代の若者のアイデンティティとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
5　研究の方法・・・18
5.1　調査内容・・・18
5.2　収集データ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
6　調査対象の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
6.1　元岡の基本データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
6.1.1　地理・沿革・産業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
6.1.2　元岡の人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
6.1.3　九州大学箱崎キャンパスの移転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
6.2　元岡商工会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
6.3　糸島空き家プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
7　がやがや門の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
7.1　がやがや門における活動の展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
7.1.1　糸島空き家プロジェクトによる古民家改修・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
7.1.2　がやがや門の始動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
7.1.3　「学生と地域の交流拠点」としてのがやがや門・・・・・・・・・・・・・・・26

7.1.4　新しい運営方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
7.1.5　表面化してきた問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
7.1.6　問題解決への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
7.1.7　理想の喪失・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
7.2　活動の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
8　分析・考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
8.1　がやがや門の特殊性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
8.1.1　助成金に頼らない運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
8.1.2　プロデューサー不在の空間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
8.2　大学生の志向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
8.2.1　『コミュニティデザイン――人がつながるしくみをつくる』・・・・・・・・40
8.2.2　がやがや門との活動比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
8.2.3　「新しい地元」の獲得・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
8.2.4　自己実現・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
8.2.5　模索期の居場所的機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
8.2.6　社会貢献ではない志向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
8.3　今後の活動の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
8.3.1　『商店街はなぜ滅びるのか――社会・政治・経済史から探す再生の道』・・49
8.3.2　交流のその先へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
9　結論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
謝辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57